

【児童への話】

2月4日の春分を過ぎ、もう次の節季「雨水」となりました。雨水がぬるみ、草木が芽吹く時期です。番町小通用門の梅は、先週から美しい花を開き始めました。これからの時期は、皆さんを取り巻く景色がどんどん変わっていきます。よく観察して、たくさん発見してみてくださいね。

今日は、番町小の教育目標にある、「考える子」についてお話しします。

皆さん、自分が「考える子」になるためには、どうすればよいでしょうか。お勉強をたくさんする、毎日図鑑や物語などの本をたくさん読む、などが思い浮かぶかもしれませんがね。

実は校長先生は、小学生のときに、お家のコーヒーマーカーを壊したことがあります。コーヒを入れるにはコーヒ豆と水を機械に入れてスイッチを押すのですが、水の代わりに牛乳を入れたら、おいしい「カフェラテ」ができるに違いないと思って、やってみたんです。すると、機械からゴゴゴッという変な音と白い煙が出てきて、動かなくなってしまいました。

校長先生は、お父さんに、コーヒーマーカーを壊してしまったので、かなり叱られる覚悟で話しました。すると、お父さんは「それはいい考えだった。カフェラテができなかったのは何でだろうね。」と、笑って許してくれました。それから先生は、水と牛乳の成分の違いや、コーヒーマーカーの仕組みなどを自分で調べて、考えて、少しかしこくなりました。今でもそのことをよく覚えています。

かしこいと言えば、とても有名な科学者に、アルバート・アインシュタインがいます。宇宙の謎を解明する考えをたくさん生み出した、超天才です。その人の言葉を、2つ教えます。

ひとつ 「大切なのは、好奇心を失わず、疑問を持ち続けることだ」

ふたつ 「何かを学ぶためには、自分で体験する以上によい方法はない」

合わせると、自分が知りたいことや不思議に思うことを、自分でやって確かめてみることもよりも、よい学習はないということです。番町小のかしこい皆さんは、自分が不思議に思うことや苦手なこと、できないことをそのままにせず、まずやってみようと考えてもらいたいと思います。体験することで、新しいことが分かったり、できるようになったりする楽しさを味わってってください。

今日は「考える子」について、お話ししました。

【本講話について】

我々教員は、子ども達と授業で勝負しています。「分かった、できたを実感させる」「なぜ?の疑問を生む」「もっとできるようになりたい気持ちを育てる」ことを目標に、日々授業を改善し続ける必要があります。中でも、子どもに「なんで?」「おもしろい!」と感じさせることで、自ら学びに向かおうとする姿勢を育てることが重要だと考えています。

「好奇心 (curiosity)」は全ての学習の源であり、近年のノーベル賞受賞者が多く口にしている言葉です。毎日、好奇心いっぱい学校に来る子が増えるよう、教育活動を改善し続けていきます。